

情報連絡一覧票（北海道中央会・平成29年1月分）

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製	食料品	味噌・醤油	<p>味噌出荷量（道内）：単月（28年12月） 前年対比 100.5 % 醤油出荷量（道内）：単月（28年12月） 前年対比 95.5 % ・平成28年の年間味噌出荷量（道内）は前年対比100.2%だった。 平成28年の年間醤油出荷量（道内）は前年対比96.1%と、年間をとおして悪かった。 11月迄の累計では、全国の味噌の出荷量で前年比100.4%、全国の醤油出荷量で前年比99.6%であり、北海道の場合、特に醤油の出荷量が全国平均よりかなり悪い。 米トランプ政権の経済政策、保護主義により為替の変動が大きくなっており、今後は外国産原料大豆の手当にも影響が出てくると思われる。 （全道）</p>
		飲料	<p>・1月は大雪、低温の悪天候が続き、客数減少により売上が低下したようである。 （全道）</p>
造	木材・木製品	一般製材	<p>・総体的（製材、原木）に市況は保合で変わらず。 梱包材等の動きは、受注は増加傾向。価格も変わらない。国内用パレットの需要は堅調。 工場の原木在庫量は、回復してきている。前年度からトドマツ小径材に不足感あり。各地区とも、カラマツの原木が不足している状況にある模様。 台風被害に関係して復旧用の仮設資材の受注がある。価格は変わらず。 （全道）</p>
		一般製材	<p>・素材入荷量は堅調に推移しており、前年同期比120%と運搬車両の不足状態が続く中、まずまずの在庫量となっている。 受注量もロットは細かいながらも、全体のボリュームとしては不足感はない。 （幕別）</p>
業	窯業・土石製品	砕石	<p>・札幌周辺では冬期間設備稼働はなく、除雪・排雪で売上げ計上している。 例年より若干売上げが上がっているようだが、全体的には不変。 （全道）</p>
		砕石	<p>・1月度の出荷数量は記録的な大雪だった12月からのずれ込みもあった影響か、路盤用、生コン用ともに前年対比増加となり、4月よりアスファルト用も組合商流になったため、全体でも売上高とともに前年対比増加した。 （札幌）</p>
		生コンクリート	<p>・1月の生コン出荷量は187千m³で、前月比は13.4%減、前年同月比は20.4%増となった。 地域別では、前年同月を上回った分会（協組）は29分会（協組）中21分会（協組）で、前年（増加は6分会（協組））を上回った。前年同月と比較して増加したのは札幌、道央、千歳地区などである。一方で減少したのは紋別、小樽地区、北渡島などであった。 （全道）</p>

製 造 業	鉄鋼・金属	銑鉄铸件	・1月は工作機械は減少。水道資材は減少。自動車は不変。 29年前半の見通しは悪い。 組合員1社の不況型倒産があった。 (全道)
		金属製品	・造船業界は、海運不況に伴い、契約船の見直し、発注済み新造船のキャンセル、納期の繰り延べ、船価の減額等の要求をせざるを得ない状況に追い込まれている。造船各社は非常に厳しい経営で、更に為替も安定せず先が見えない状況で、これから大きく好転することは望めない。 室蘭製作所は仕事量不足で、組合員で過剰人員が発生している事業所では道内外出張等で対応している。 (室蘭)
	一般機器	金属工作機械	・台風災害の復興関連で、ごく一部忙しいところもあるが、個人消費動向の影響を受ける印刷業等は、受注減となった。 (札幌)
		金属工作機械	・昨年度と比較すると、操業度については12月に引き続き落ちている。特に、金属加工に携わる企業に落ち込みが見られた。食品関連企業は伸びを続けている中で対照的であった。金属加工企業の冬期間操業度は毎年落ち込みが見られるが、その期間に職員の教育事業に力を入れている企業が多く見受けられた。どの企業も、年間平均しての受注高を望んでいた。 (江別)
	その他製造業	畳	・前年比では特に変化なし。 平成29年度も、一年を通して作業員不足の状態が続く模様。 (函館)
非 製 造	卸売業	菓子	・当月においては、取引先小売業が元旦営業を控える等の動きもあり、営業日数が少なくなった影響か、売上がやや前年割れするところが多かった。 (全道)
		各種商品	・売上高は前年比減少している組合員が多く、良くても前年並み。売り上げ増加との回答は皆無。販売単価も下落か不変で、結果的に収益は悪化している。 原油価格の上昇、米国大統領交代による為替の変動等、先行き不安要素が多く、企業の活動は停滞気味となっている。 (札幌)
		各種商品	・今冬(年明け～現在まで)は、寒さは大変厳しいものの、雪の降る量は比較的少ない状態が続いている。十勝各地では冬まつりや氷まつりが開催され、天気も荒れることなく、多くの観光客の方が冬を楽しんでいるようである。 今話題のジュエリーアイス(十勝・豊頃町/大津海岸)がニューヨークタイムズにも紹介され、全世界へ発信された。道内ではこの冬一番の話題&注目スポットになっているようである。 (帯広)
		電気資材	・銅の単価が高止まり傾向である。またLEDランプの普及により既存のハロゲンランプ、水銀ランプ等のメーカー価格が10%程の値上がり傾向にある。 (全道)
			野菜・果実
業	小売業	各種商品	・1月の売上げは全体的にやや低調に推移した。その中で時計・貴金属等、一部高価格商品、衣料品全般、呉服、仏壇仏具、自動車関連、生活・住宅関連等が好調であった。また、厳冬期と重なって価格が上昇したエネルギー関連も伸びた。1月は一見単価が上昇した業種が多くなっており、明るさは垣間見えるが、個人消費の回復は依然として鈍いと思われる。 (札幌)
		各種商品	前年比較 物販見込 105.6% 金融 88.96% ・1月の天候は例年と比較して穏やかで、物販は堅調に推移した。燃料代の単価値上がり売が高増加の一要因となった。 収益においては設備投資費用の増加で悪化している。 (旭川)
		各種商品	・帯広商工会議所がまとめた、2016年の十勝管内大型店5店とスーパー4社の売上高は前年比0.21%減の604億1,600万円で過去10年で最低だった。その要因は「ネット通販など購入機会の多様化に加え、昨年8月の台風被害以降の買い控えなども影響した」と報告した。 (帯広)

非 製 造 業	小 売 業	各種商品	<p>・取引条件の悪化については、野菜が高値のため、青果店では量で価格を調整したり、惣菜店では安い野菜を使ったり、混ぜる量を変えたりと工夫しているようである。</p> <p>1月は雪が多くて寒い日が多く、来客数は激減している。例年1～2月は暇であるが、今年は特に少ないと口をそろえて言っている。近くにアークスが出店したことが一因とも思われる。お客様がそちらに流れていると（小樽）</p>
	各種商品	<p>・1月取扱高は前年比101%の状況で、少しずつ取扱高は回復している。積雪の影響で商店街が非常に歩きにくく、街に歩行者が少ない状況である。アジア地区からのインバウンド観光客が少しずつ多くなっているが、以前のような爆買いする状況とはなっていない。2月の「雪まつり」や「冬季アジア大会」での観光客の来道に期待する。（苫小牧）</p>	
	各種商品	<p>・1月の各組合員の状況について 各組合員とも初売りは天候にも恵まれ、売上は好調だった。しかし、中旬以降については前月同様に厳しい状況が続いた。今後についても、道東地域に関しては好材料も乏しく、先行きを不安視する声が多かった。</p> <p>・㈱日専連釧路の1月の取扱高について 1月の取扱高については、前年を上回る取扱高を達成することができた。主な要因は燃料系の価格の高騰によるものと推測される。しかしながら、組合員同様、今後も厳しい状況が続くと思われる。新たな販促策を企画し、取扱高の年間目標達成を目指す。（釧路）</p>	
	燃料小売業	<p>・原油価格は年末年始も続騰し、円安ドル高も加わり、元売仕切価格は12月以降5週連続で値上げ改定となっている。</p> <p>1月の販売動向は、12月までは昨年を上回る販売量であったが、1月に入りガソリン、灯油ともに昨年同期に比べ1ℓ当たり20円前後上昇しており、更に寒さも一段落し、灯油についてはこれらの要因から消費者が節約志向へと動いており、ガソリンについても当地方の積雪が例年の半分以下となっており、除雪車の給油が減少している。</p> <p>収益については、仕切価格の値上げにより市況価格も上昇しているが、マージン不足は常態化しており収益増に結びついていない。（稚内）</p>	
	各種食料品	<p>・魚の価格上昇により原価が上がっているが、売価になかなか転嫁できず、利益額が減っている。その要因は、天候の不安定さと気温の低下でお客様が買い回りをしないことと、買い物方法が配達・ネットの時代に移行しつつあることが考えられる。（札幌）</p>	
	野菜・果実	<p>・売上高は前年同月比101.4%の実績となり、微増ではあるが、客単価がやや上昇した。（札幌）</p>	
	各種商品	<p>・新幹線同様に依然好調が続く訪日外国人観光客が、今年の春節が例年より少し早くスタートしたことで、今月はリピーターなどによる個人旅行者を中心に多くの方々にお越しいただいた。なかでも、1月28日～1月31日の4日間で、昨年に引き続き北海道運輸局と共同で、各店舗の売上増加につながる効果的な方法について調査を実施し、この結果をもとに、今後函館朝市で更なる販売拡大が図られるよう実証実験を行った。総合カウンターで既に登録されている免税店22店舗には現地スタッフを配置し、POPを利用した販売支援を行った結果、どの店舗も売上向上に繋がり、語学の必要性や自前での販売手法に皆一様に気づきが出てきているようで、今後も組合単独でも支援施策を検討していかなければならないと強く感じた。</p> <p>また、組合店で取り扱いの多い各商品（道南のスルメイカやスケソウダラ、道内の秋サケ、ホタテや昆布、野菜）が軒並み価格の高騰や品薄状態となり、年が明けた現在も大変苦しい状況が続いている。（函館）</p>	

非 製 造 業	小 売 業	燃料	<p>・OPECの原油減産、さらにはトランプ発言等により、原油価格、為替相場が大きく乱高下しており、一部には販売量増の恩恵を受けている販売事業者も見受けられる。しかし多くの事業者にとっては、仕入れ時との値差の関連で極めて厳しい状況を余儀なくしている。特に地方都市における小規模企業にあっては資金繰りはもとより、これまで同様、需要低下による収益の悪化により、廃業に追い込まれるケースも散見される。</p> <p>また、1月の販売動向を見ると、寒波や降雪等の影響もあって、灯油需要は結果として一時横ばい傾向で推移した。しかし、依然として消費者の節約志向を反映した買い控え等もあり、ガソリン・灯油を含め、末端販売業者にとってはなかなか値上げに踏み切れず、収益増にまで結びついていないとの声も一層大きくなっている。 (全道)</p>	
		電気機械器具	<p>・1月の家電販売は、4Kテレビが期待ほど伸びず単価も下がり厳しい。来年の4K放送開始に向けてのインフラ整備が進んでいる。</p> <p>LED照明器具と調理家電は前年比で横ばい程度。暖房エアコンに注目が集まっている。</p> <p>4月からのガス事業自由化を受けて北海道電力もガス事業に参入する予定など、電気、ガス料金の価格競争が進んでいる。</p> <p>大手家電メーカーの東芝の今後について注目が集まっている。(全道)</p>	
		燃料小売業	<p>・ニューヨーク市場の1月3日の原油先物相場WTI原油は52.33ドルで、12月1日の51.06ドルから1ドル強上昇でスタート。これはOPECの減産合意を好感して反発、1月は52～53ドル台を反落反発で繰り返し、1月31日では52.81ドルとなっています。1月から協調減産が実行されてるようであるが、米国の原油在庫増もあり、推移が気になる。</p> <p>(組合員の業況)</p> <p>・1月は原油価格も上下はあるものの、横ばい状態で小売価格もそれに合わせて大きな変動はなかったようである。しかし相変わらず量販店の影響が大きく、先月来同様安値価格から適正価格に及ばず、利益圧縮と販売量減少で、前年や前月と同様厳しい経営を続けているSSが多いようである。 (旭川)</p>	
		自動車・自転車	<p>・例年より雪が多い地方と少ない地方で、状況が大きく違う。少ない地方は除雪機が伸びず、大変な状況である。多い地方は除雪機の修理等で大変である。春の自転車の準備にも忙しくなっている。 (全道)</p>	
		燃料	<p>・原油の上げ幅は、年が明けて勢いがなくなった。</p> <p>自動車油は、暖房油の値上げに引きずられる形で値上がりした本地域は札幌に近く、札幌の影響を即日に受ける。</p> <p>特に灯油の在庫不足を理由に値上げされたが、1月に入り、遅れてA重油の値上げが続いた。</p> <p>来月に入ると暖房油のシーズン使用量が正確に予想されるため、一般的に値下がりする。 (岩見沢)</p>	
		中古自動車	<p>・新年(お正月)の展示会等もそこそこ売れたようである。リース(個人)の契約も少々増えている。 (札幌)</p>	
		農業用機械器具	<p>・12月と変わらない。 (全道)</p>	
		商店街	各種商品	<p>・藤丸百貨店の12月売上高は7億265万8千円で、前年同月比12.08%減少。昨年同期にプレミアム商品券があり、その反動と降雪による影響で来店客数が減少。</p> <p>大型5店の12月売上高は23億3,600万円で、前年同月比6.1%減少。スーパー3社は42億700万円で、前年同月比2.9%増加。</p> <p>2016年の大型店5店とスーパー3社の売上高は604億1,600万円で、過去10年で最低。</p> <p>大型店5店は前年比1.0%減少で209億5,100万円。ネット通販やファストファッションなど購買方法の多様化、台風被害以後の買い控えなども影響した。</p> <p>スーパー3社は前年比0.2%増加で、394億6,500万円。 (帯広)</p>

非 製 造 業	サービス業	理容	<p>・それぞれの店舗にもよるが、年末は思ったより客足が伸びなかったとの報告を受けた。最近の傾向は以前と変化して、何が何でもすっきりヘアで新年を迎えるという意識が薄れているように感じられる。これからまだ寒さが続くので、客足はさらに鈍くなると思う。 (釧路)</p>
		ソフトウェア	<p>・北海道内のシステム受託開発企業はほとんどが大手ベンダー会社(NEC、富士通、IBM、NTT等)系や二次、三次のベンダーからの発注に頼っている。マイナス金利の影響でメガバンクを中心とした金融機関からのIT投資が縮小されている。その反面、IoT絡みやAIに関連する業界は業績に関係なく積極的なIT投資が際限なく広がっていることから、システム開発需要は大きな勢いで上昇カーブを描いている。その影響が道内のシステム受託開発会社にも押し寄せて、堅調な受注増によって業績向上につながっているものの、深刻な人材不足が続く道内IT業界では「需要はあるのに、ニーズに合う人材の採用ができない」と苦悩する経営者が多い。</p> <p>また、このところシステム開発の受注単価が伸びてきている反面、中途採用者や既存社員の人件費が上昇して、思ったような利益確保にはつながっていない。そのため、受託開発だけにとどまらず、自社独自のパッケージソフトやスマホ向けのアプリケーション開発を積極的に進める企業も出てきた。</p> <p>さらに、IT業界を敬遠する就活生やIT企業を離職する原因になっている長時間労働を解消することが、政府が進める働き方改革に通じるという考えから、長時間労働を解消するための生産性向上策をどのように具体的に進めるかの取り組みを始める札幌のIT企業も出てきた。ただ、長時間労働を解消するためには社員の増加が必要になることから、増加分の人件費をカバーする業績をいかに計上できるかどうか、働き方改革を進めるうえでの重要なキープファクターとなる。 (全道)</p>
		公衆浴場	<p>・特に何もなく、現状維持。 (全道)</p>
		旅館	<p>・宿泊入込は約32,018人 昨年度同月+1,151人となった。台風被害の施策として音更町宿泊助成が12月から開始され、その成果で入込が増加している。</p> <p>今後、国の補助助成も開始される予定だが、引き続きあらゆる面で要望し、組合としても努力する所存である。</p> <p>今後とも十勝川温泉へのご支援をお願いしたい。 (音更)</p>
	建設業	内装工事	<p>・テナント、病院等の改築及び改修工事があった。内装仕上げ作業は、一番大事な作業が安く行われているのが現状である。改修工事等でも大手ゼネコン、建材が入り、安い価格の競争物件ばかりである。受注の値崩れとやはり物件が少ない。同月と比較すると売上げは多かった。消費税の関係なのか、売上げはあった。 (全道)</p>

非 製	建 設 業	管工事	<ul style="list-style-type: none"> ・組合員の業況 民間の修繕工事（凍結解氷等）が中心となり、厳しい状況が続くようである。 ・問題点 修繕工事を中心とした業務になることから、雇用調整を行う会社も出てくる。 ・地域の実情 新年1月に入り穏やかな日が続いたが、降雪や気温低下の状況で、除排雪作業や土木工事（災害復旧工事、補正予算による道路造成工事）、建物の解体工事が進捗している状況である。 新年度の予算がほぼ確定し、業界にとって注目される時期となる。 (名寄)
		電気工事	<ul style="list-style-type: none"> ・1月は年越し物件がそれなりにあるようで、全体的に淡々としている。住宅関連は年度末入居を目指し、多忙になってる模様である。雪解け着工物件が少しであるが、見積もりに引き合いが出てきている。例年、これから受注活動が活発していく模様である。 (全道)
造 業	運 輸 業	一般貨物自動車運送	<ul style="list-style-type: none"> ・馬鈴薯や玉葱の動きは前月並み。十勝方面のJRコンテナが開通したことにより、シャーシ輸送の減少が予想される。 一般カーゴについては、昨年に比べて荷の出方に偏り感がある。 域内輸送も前年並みと思われるが、出荷のタイミングなどイレギュラー性が多くなっている。 (石狩)
		一般貨物自動車運送	<ul style="list-style-type: none"> ・降雪量が少ないため、除排雪業務は減っている。さらに、8月の台風の影響で根菜類の出荷も少ないため、売上高が減っていることが現状である。 雇用人員については常態化しており、今後どうするか悩んでいると思われる。 (小樽)
		一般貨物自動車運送	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンプや雑貨は順調だった。ドライバーの労働時間短縮の為の間接経費増大が続く。原油価格の上昇基調が続き、軽油価格が昨年同期より13%以上高くなり、今後の原油相場動向が心配される。 (札幌)
		一般乗用旅客	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高は、前年同月比4.4%減少。 乗務員数は、前年同月比4.0%減少。 12月分チケット取扱高は、前年同月比5.2%減少。 (旭川)

(中央会、行政庁への要望事項)

製 造 業	一般機器	金属工作機械	・物流・観光などの経済活性化にも必須の鉄道網は、J R北海道単独では無理。J R東日本と統合するなど、国の政策として責任とスピード感を持って取り組んでほしい。大雪による新千歳空港の機能マヒを考えると新幹線の札幌延伸と青函間の複数トンネル化・地方中核都市間とのスピードアップも考えてほしい。累進課税の強化をしてほしい。 (札幌)
		金属工作機械	・補正予算で追加になった設備投資に係る助成金についての話を聞きたい(組合員向けの説明会等)。 泊原子力発電所の早期稼働。 雇用対策(人を募集しても応募がないため)。 (江別)
	窯業・土石製品	生コンクリート	・景気対策として、公共事業費の継続的な確保、住宅投資・設備投資等への刺激策の実施及び北海道新幹線札幌延伸工事の工期短縮等を望む。 生コン工場の集約化を推進するための積立金の課税免除等税制措置を創設してほしい。 (全道)
非 製 造 業	小売業	各種商品	・各機関においては、今回組合で実施した調査事業をさらに発展できるようなバックアップを望む。 (函館)
	商店街	各種商品	・景気の後退を回避するため、積極的な経済対策を講じてほしい。 (帯広)
	サービス業	旅館	・道東道の「オサルシPA」で、スマートインターを早期に実現してほしい。 (音更)